柿生文化

平成２３年８月１８日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館　情報・研究誌
第３９号

大地震の前兆現象を探るⅠ

江戸時代にあった「地震予知計」これがなかかの優れ物！

――― 柿生郷土史料館にもこの原理を活用した「地震予知計」を展示 ―――

現在、柿生郷土史料館で特別企画展「瓦版・新聞で見る　江戸・東京大地震展」が開催されています。展示物の中に江戸時代の安政江戸大地震や地震予知計を紹介した「安政見聞誌（あんせいけんもんし）」が展示されています。是非一度ご覧ください。

（「安政見聞誌」地震計の図）

この古書のなかにはこんなことが書かれています。『浅草のメガネ屋（江戸時代にはすでにメガネはあった）が長さ三尺（約1M）あまりの天然磁石（たぶん磁鉄鉱）に釘等をつけて店の看板代わりにしていたところ、ある夜、天然磁石に付いていた釘が全部落ちた。安政江戸大地震はその約２時間後に発生した。地震後には異常が見られず、その天然磁石に釘は元通り付くようになっていた』という記述があります。

「安政見聞誌」には、その原理を利用して作製した「地震計」（地震予知計）の図面が載せられています。

その後、佐久間象山（幕末期の思想家・兵学者、後に暗殺された）が磁石の下に鈴をぶら下げた鉄片を付け、落下すると音が鳴るしくみの地震予知機を製作しました。

これらの、地震予知計は、磁石が大地震直前に磁力を失う性質（必ずしも全ての地震に該当するとは限らない）を利用したものです。すでに幕末期にはこのような道具が存在したということは驚きです。

展示会場には、同じ原理を利用し国産の磁鉄鋼を使用して作成した「地震予知計」を展示しています。

（「安政見聞誌」古沢荘一氏　所蔵）

――― 第３回　特別企画展 ―――

かわら版と新聞で見る　江戸・東京の大地震展　歴史から学ぶ

期間　７月～９月　　**場所**　柿生郷土史料館

内容　江戸安政地震のかわら版と関東大震災の新聞をもとに大地震を考える

― *いかにして家族を守るか！* ―

地震に関するセミナー

８／２７（土）10:00「安政大地震と関東大震災」
９／１８（日）10:00「大地震の予兆と心構え」

トイレの考古学Ⅳ　――絵巻物に見る昔のトイレ事情――

右の絵は１２世紀平安時代後半の「餓鬼草紙(がきそうし)」に描かれている排便の姿です。この絵だけ見ますと子供が一人、布をかぶった女性が一人見えます。他の瘦せこけてお腹が異様にふくらみ、人間の排便を見つめている不気味な生きものが「餓鬼」といわれる鬼です。もちろん二人の人間の目には見えません。

(餓鬼草紙)

さて、二人の人間に注目してください。大人の女性は高下駄(たかげた二歯の高い下駄)を履いています。子供は普通の下駄でしょうか。一般的には子供などは、この当時は裸足の生活でしたが下駄を履いています。
子供が持っている「ヘラ」は以前にも紹介した「籌木(ちゅうぎ)」といわれる「屎べら」です。排便のあとお尻に付いた糞をヘラでこすり取るわけです。一般の人は大体これで終わりですが、二人の周辺には紙のようなものが散乱しているのが見えます。これはどうも排便処理に紙も使用していたようです。平安時代は「紙」は貴重品ですから、この二人は身分的には高かったのかもしれません。

この絵を見ていると現代人にはどうしても理解できないことがあります。それは、本当に路上で糞便をするのかということです。平安時代中頃１０世紀後半の「落窪物語」という書物の中には貴族が都大路を歩いていて、うっかり糞便の多い所にしゃがんでしまったという記述があります。この絵もけして大げさに描いたものではないようです。　日常的には平気で道路で用をたしていたようです。下駄はその時のための必需品であったのではないでしょうか。

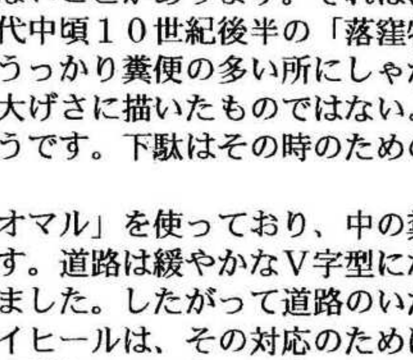
もっとも中世ヨーロッパでは、日常、家の中では「オマル」を使っており、中の糞便は窓から道路に投げ捨てていたという事実があります。道路は緩やかなＶ字型になっており道路の中央部に汚物が溜まるようになっていました。したがって道路のいたるところには糞便が転がっていたそうです。女性のハイヒールは、その対応のために考案されました。なんと、その昔、パリの街路は糞便で溢れいていたのです。

平安京の都大路。そこは決して清潔で素敵な大都市とはどうも違うようです。そんな事で都ではよく伝染病が流行しました。ですから京都では八坂神社に牛頭天王(ごずてんのう)を祀って疫病退散を願ったわけです。そのお祭りが祇園祭であったわけです。

聞いて良かった！「地震の備えと心構え」　第6回　史料館ガイドセミナー

７月１０日（日）柿生郷土史料館で開催されたガイドセミナー「地震のメカニズムと防災」には多数の参加者が出席し、講師の市危機管理室 大枝先生からの防災に関する熱演を伺うことができました。

特に東日本大震災の室内の実写をもとに初期対応の大切さや日常の備えについて大変参考になるお話を伺え、まさに「目からうろこ…」の思いでした。


(熱演する講師の大枝氏)

柿生・岡上　昔の生活Ⅱ　子供の遊び

子供の遊びは、同じ川崎市内でも各地域によって異なるものもあります。下の表は昭和３０年代前半までの麻生区のものです。※区内でも異なるものがあります

外遊び野	コマまわし・メンコ・タコ揚げ・竹馬・タガマワシ・十五夜のダンゴとり セイノカミ（どんどやき）・戦争ごっこ・陣取り・片足相撲・はさみ将棋 魚釣り・蛍とり・雪合戦・雪だるま・ドジョウすくい・ウナギ釣・流し針 雀とり（ブッチメ）・ガチャガチャ(くつわむし)とり・セミとり・タニシとり ビー玉・罐蹴り・釘立て(相手の釘を倒す)・相撲・母艦水雷・馬跳び・紙鉄砲 水鉄砲・雀獲り・パッチン(仕掛け)・ブッチメ(仕掛け)・ヒッコクリ(兎などの仕掛け) べーごま・羽根つき・鬼ごっこ・チャンバラ
外遊び好	マリつき・かくれんぼ・鬼ごっこ・縄跳び・ドッチボール・石蹴り・カゴメ・通りゃんせ・ずいずいずっころばし・円陣とり・天下落としキシャゴ(おはじき)・お手玉・あやとり・ママゴト・ゴムとび・花いちもんめ・羽根つき
内遊び	カルタとり・すごろく・福ならべ・指相撲・腕相撲

（参考資料「川崎市史」）

（マリつき歌） 主に女の子　この歌覚えていますか？　※時代や地域によって若干歌詞が異なります

一番始めは一宮	六つ村々鎮守様	これだけ心願かけたなら
二また日光中禅寺(東照宮)	七つ成田の不動様	浪子の病も治るだろ
三また佐倉の宗五郎	八つ大和の法隆寺	ゴウゴウゴウゴウ鳴る汽車は
四また信濃の善光寺	九つ高野の弘法様	武雄と浪子の別列車
五つ出雲の大社(おおやしろ)	十で東京心願寺(招魂社)	二度と逢えない汽車の窓
		泣いて血を吐くほととぎす

（しりとりうた） 主に男の子　※日露戦争の頃から流行りました

大将の乃木さんが、凱旋す、すずめ、目白、ロシア、野蛮国、クロパトキン(ロシア軍総司令長官)、金の玉、マカロフ(ロシアの旅順艦隊司令長官)、褌(ふんどし)、しめた→最初にもどる　※地域によって文言が異なります

「多摩川の流れの変化と地券」「多摩川の『マ』と麻の関係」５／２９カルチャーセミナーの質問について

先日、第２８回のカルチャーセミナーの時のご質問についてお答えします。

①「多摩川の流れの変化によって地名や地番の変化があった場合、地券の記載事項も変わるのか」のご質問→特に河川敷など川の周辺については、地券の発行のない場合が多く、村の共有地として扱われていることが多かったそうです。したがってそのようなケースは大変少ないと思います。もし地券が発行されている土地で、そのような事例が発生した場合は記載事項が変更されるはずです。

②「万葉集などでは多摩川を『多麻河伯』等と記していますが『麻』の文字は植物の麻と考えても良いのか」のご質問→奈良時代の文字の使用については「万葉仮名」と言われ漢字本来の意味を離れ漢字の音(おんニ読み・発音のこと)をもとに使用されることが一般的でした。したがって麻生ならば『阿佐意』というように漢字の音をもとに表しています。そして「タマ」の『マ』は『万』『麻』『摩』『真』等の漢字で表していました。ですから『マ』は植物の『麻』と同一と考えることはできません。

∈∋∈∋∈∋柿生郷土史料館開館のご案内∈∋∈∋∈∋

開館時間
開館：午前１０時
閉館：午後　３時

夏休企画８月４日(木)
８月６日(土)
夏休企画８月１８日(木)
８月20日(土)
※夏休企画は小・中学生のみです

ガイドセミナ８月27日(土)
8/13は臨時休館日

ガイドツアー９月　４日(日)
９月１１日(日)
ガイドセミナ９月１８日(日)
カルチャーS９月２５日(日)

∈∋∈∋柿生郷土史料館の８・９月の催物∈∋∈∋

（特別企画展）　※　お問い合わせ　９８８－０００４（柿生中学校）

第３回特別企画展

■テーマ　「瓦版と新聞で見る　江戸.東京の大地震」
■期　日　７月（日曜日）・８月（土曜日）・９月（日曜日）

（各種セミナー）

夏休み特別企画（1）（2）　小・中学生集まれ！

(1)「体感　縄文時代」　８月４日（木）１０時～１２時
土器・石器に触れてみよう・火起し体験

(2)「地震の不思議」　８月18日（木）１０時～１２時
なぜ地震は起きるの？地震から命を守るには

第７回ガイドセミナー（特別企画展対応）

□テーマ　「安政地震と関東大震災」　大災害になった理由は何か？
□講　師　柿生郷土史料館支援委員
□期　日　８月２７日（土）午前１０時より
□内　容　安政大地震と関東大地震を展示品をもとにわかりやすく解説

第８回ガイドセミナー（特別企画展対応）

□テーマ　「大地震の予兆と心構え」　過去の地震から探る
□講　師　柿生郷土史料館支援委員
□期　日　９月１８日（日）午前１０時より
□内　容　安政大地震と関東大地震を展示品をもとにわかりやすく解説

第29回　カルチャーセミナー

◉テーマ「お江(ごう)の時代と王禅寺お化粧料」
◉講　師　村上　直　氏　（法政大学名誉教授）
◉期　日　９月２５日（日）１４時～　◉会場　柿生郷土史料館内
◉内　容　徳川２代将軍秀忠の正室「お江(ごう)の方」のお化粧料の地があった王禅寺周辺の江戸時代初期の姿を浮き彫りにする。